

クラス番号	615	担当教員名	大谷 京子
テーマ	精神保健領域のソーシャルワーカーのスキルを学ぶ		
著書・論文 研究課題等	<p>「病院ってどんなところ？」『医療ソーシャルワーカーの仕事』荒川義子編, pp.1-7.川島書店, 2000.</p> <p>「精神障害当事者から求められる精神科ソーシャルワーカーのあり方と当事者との関係性—当事者を対象としたフォーカスグループインタビューより—」『ソーシャルワーク研究』31(1), 45-52. 2005</p> <p>「精神科ソーシャルワーカーの実態—ベテランPSWのインタビュー調査より—」『精神保健福祉』38(4), 397-405. 2007.</p> <p>「精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカー—クライアント関係に関する実証研究—「ソーシャルワーカーの自己規定」, 「対象者観」, 「関係性」概念を用いて—」『社会福祉学』51(3), 31-43.2010.</p> <p>『ソーシャルワーク関係—ソーシャルワーカーと精神障害当事者—』相川書房, 2012.</p>		

ゼミナール概要

キーワード：PSW、ソーシャルワーカー・クライアント関係、アセスメントプロセス、ソーシャルワークスキル

私のこと： 高校生のときに PSW を志して大学入学したものの、あまりにもおもしろい大学生活を満喫し、4 年生になったときに、このまま「精神障害者の前には出ることができない！」と気づき（社会福祉士試験も、申し込み締め切り期日を知らずに受験できませんでした）、大学院に進学しました。「一生分の勉強した！」と、修了後、精神科病院の PSW になりました。その後、地域生活支援センターを立ち上げて施設長をつとめ、啓発のための市民グループも立ち上げました。この 10 年の PSW 経験の中で、私は PSW を「世界で一番おもしろい仕事」だと思ってきました。

精神保健福祉領域は、研究も、実践も、質量ともに乏しいです。「change agent」であるソーシャルワーカーも、この現実を変えていく役割を担う一員だと思っています。それなのに、PSW に対する批判もたくさん聞こえてきます。PSW の専門性の向上、スキルアップは、喫緊の課題だと感じています。そこで今、ソーシャルワークプロセスの「アセスメント」に焦点を絞って研究しています。

ゼミの目的： ① 自分を知り、「なりたい自分」になるために、お互いを切磋琢磨します。

② 日本の精神保健福祉に関する現状を、頭と身体で学びます

③ 障害の有無だけでなく、誰もが生きやすい地域づくりのためには何が必要かを考えます。

授業内容：

ゼミ活動の内容・方法は、皆で相談して決めていきたいと思います。ただ、現場にでかけて精神障害当事者と出会い関わること、座学を積み重ねて実践と統合すること、学びをゼミ仲間と共有することは、取り入れていきたいと思っています。

3 年生

- ・精神保健福祉領域の実践現場への見学や、ボランティア活動に主体的に取り組み、さまざまな課題を見出し考えます。各自、精神障害者が利用する社会資源とコンタクトを取り、授業時間外に活動します。ゼミの中では、その活動報告をし、皆で学びを共有します。

- ・夏休みには、卒業研究につながるレビュー論文を作成します。

- ・南知多病院の入院患者さんを対象にしたイベントに企画段階から参画します。歴代ゼミ生は、クリスマス会で、社会的入院患者さんの退院に対するモチベーションを上げるきっかけになるようなお芝居やクイズ大会を企画・運営しています。

4 年生

- ・夏休みまでに卒業論文を提出します。

- ・後期は国家試験対策を全員で行います。

担当教員からのメッセージ



お互いに相手を大切に作るゼミを目指しましょう。ゼミの全てのメンバーにとって安心できる場所にするため、安心を提供する責任をお互いに担っていききたいと思います。

一人ひとりが個性を発揮し、それぞれのタレントを生かしているようなゼミにしたいと思います。そんなゼミ創りに貢献していただける人を希望します。

エントリーシートには、①精神保健福祉に関心をもった理由、②現段階での希望進路とその理由、③「がんばったなあ、自分」と思える経験とそこから学んだこと、④あなたご自身のセールスポイントを記載してください。